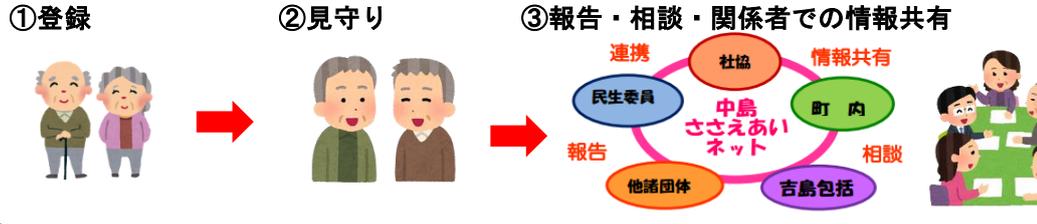


高齢者地域支え合い事業「中島ささえあいネット」【中島地区】

～地域ぐるみで高齢者を見守り支え合う～

【参加団体】 地区社会福祉協議会、町内会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ連合会、女性会、福祉推進委員、地域包括支援センター、地区住民

<p>地区の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の中心部に位置し商業ビルや店舗もあるが、戸建て住宅やマンション・アパートも多い。 ・ 単身高齢者や高齢夫婦のみの世帯の増加とともに、見守りや支援が必要な世帯の把握や情報共有が課題であった。 ・ 元安川と本川に挟まれたデルタ地で、地区内に洪水と高潮の浸水想定区域を含むため、災害時に備えて平時の見守りを充実させることが重要である、との声があがっていた。
<p>取組内容</p>	<p>◆既存の見守りを強化する形でネットワーク化</p> <p>これまで地域では、民生委員による一人暮らし高齢者等の生活状況の把握や、気がかりな高齢者を見守る地区社会福祉協議会による「近隣ミニネットワーク」、住民や町内会の見守りなど、様々な主体による見守り活動が行われてきた。各団体が行う見守り活動を充実させながら、互いに連携し情報を共有し合い、地域全体で高齢者を見守る新たなネットワークを作ろうと、広島市の取組「高齢者地域支え合い事業」の仕組みを活用し、平成28年4月、中島地区社会福祉協議会を中心に「中島ささえあいネット」を立ち上げた。</p> <p>～高齢者地域支え合い事業とは～</p> <p>地域の高齢者の相談窓口である地域包括支援センターがコーディネーターとなり、小学校区を基本に、様々な団体が連携してネットワークをつくり、高齢者を見守り共に支え合う地域づくりを目指す取組。見守りを希望する高齢者が緊急連絡先などの情報を登録し、「協力員」が日頃のあいさつや声かけにより見守り、緊急時には包括支援センターが支援。</p> <p>①登録 ②見守り ③報告・相談・関係者での情報共有</p>  <p>◆地域団体が定期的に顔を合わせ情報共有</p> <p>約3か月ごとに各町内の担当者や各地域団体が集まり、「中島ささえあいネット運営委員会」を開催。見守り協力員「ささえさん」の活動を報告し合い情報共有。見守りの課題や「どうすればこのネットワークが地域に広がり、住民の力になれるか」といった観点からも話し合いを行っている。</p>
<p>活動による効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人の同意を得て情報を登録するため、これまで課題であった関係者間での個人情報の共有が可能となり、連携が強化され、各活動の負担も軽減された。 ● 医療や介護の専門職がいる地域包括支援センターが事務局であるため、登録者のちょっとした変化や緊急時の対応も地域と連携しスムーズな支援が可能に。 ● 登録者からは「一人暮らしで何かあったときに不安だったけど、普段から気にかけてくれる人がいて嬉しい。遠方に住んでいる家族も安心してくれている」との声も。
<p>行政の支援</p>	<p>区役所（地域支えあい課）も登録者や協力員の情報をシステム上で共有し支援。運営委員会に区の職員も参加し、地域課題解決の相談など共に検討している。</p>



▲運営委員会では、「登録者のAさんは入院されました」「Bさんは変わらずお元気だそうです」などの見守り状況のほか、「どうすれば登録者が増えるだろう?」「登録まで至らなくても、サロンで見守りができていますよ」など関係者が様々な情報を共有し、意見交換をしています



▲ネットワークの輪を広げようと、地域役員自らがモデルとなり広報用チラシを作成!



▲中区の見守り活動報告会では事例を発表



▲年に1回「ささえさんのつどい」を開催。互いの活動をねぎらい交流しています